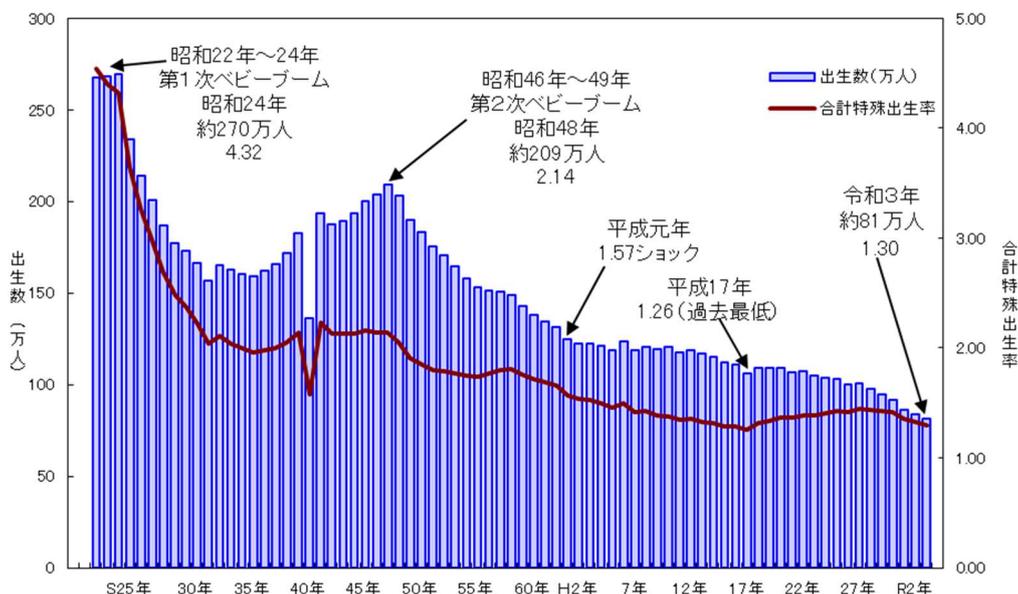


子どもに関するデータ集

1 日本の少子化の状況

(1) 全国の出生数と合計特殊出生率の推移（昭和22年～令和3年）

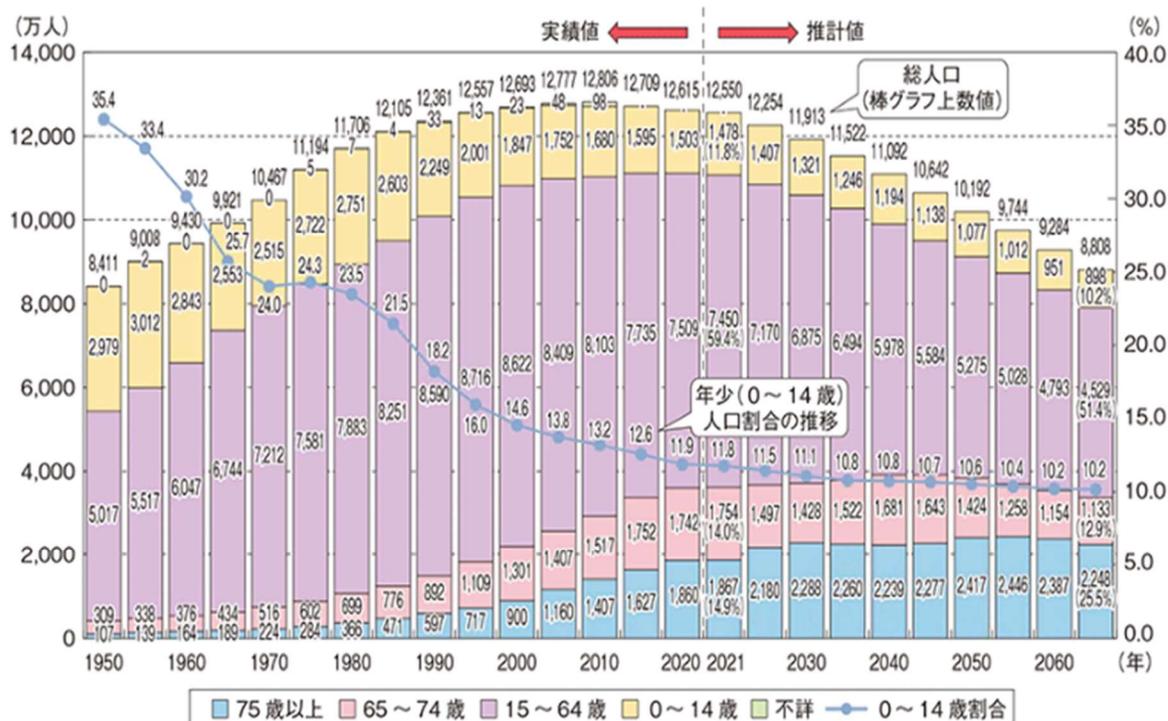
全国の出生数は第2次ベビーブーム以降、減少を続け、平成3(1991)年以降は増加と減少を繰り返しながら緩やかな減少傾向にある。合計特殊出生率は平成17(2005)年に過去最低となってからは微増傾向だったが、近年は微減傾向。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

(2) 全国の人口構造の推移と見通し

全国の人口は、平成22(2010)年から減少傾向にある。今後も、年少人口(0～14歳)と生産年齢人口の減少が続くとともに、高齢者人口(65歳以上)の割合が相対的に上昇し続けている。



資料：2020年までは総務省「国勢調査」（2015年及び2020年是不詳補完値による。）、2021年は総務省「人口推計」（2021年10月1日現在（令和2年国勢調査を基準とする推計））、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果を基に作成。
注：百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

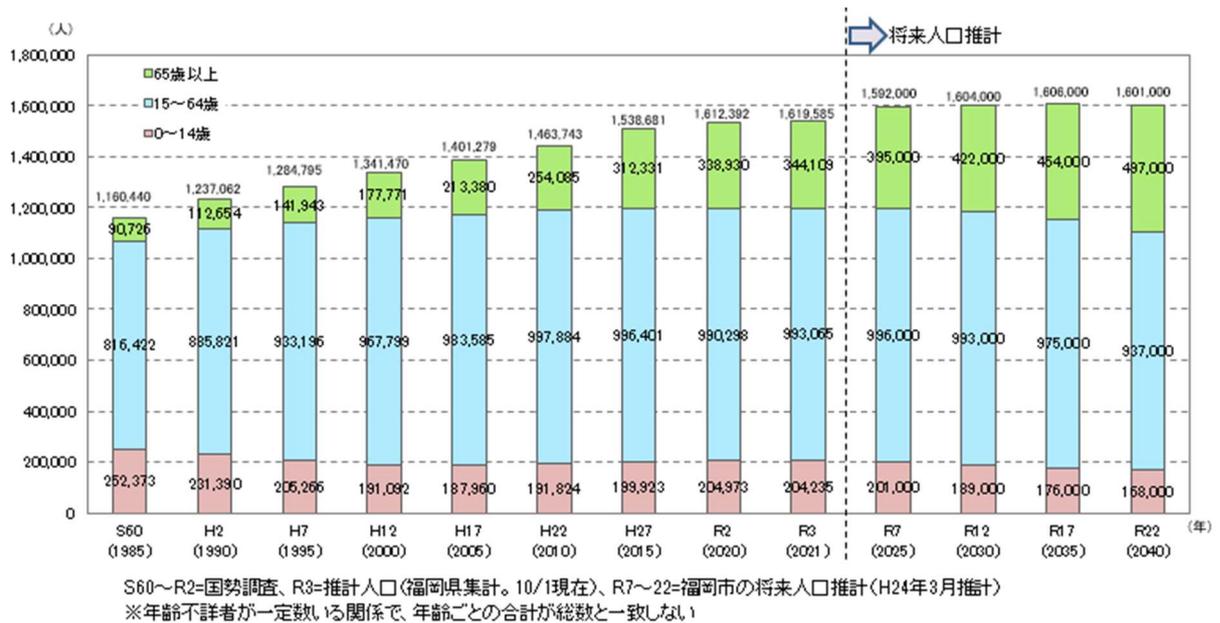
出典：内閣府「R4年版 少子化社会対策白書」

2 福岡市の状況

(1) 福岡市の人口と年齢構成の推移

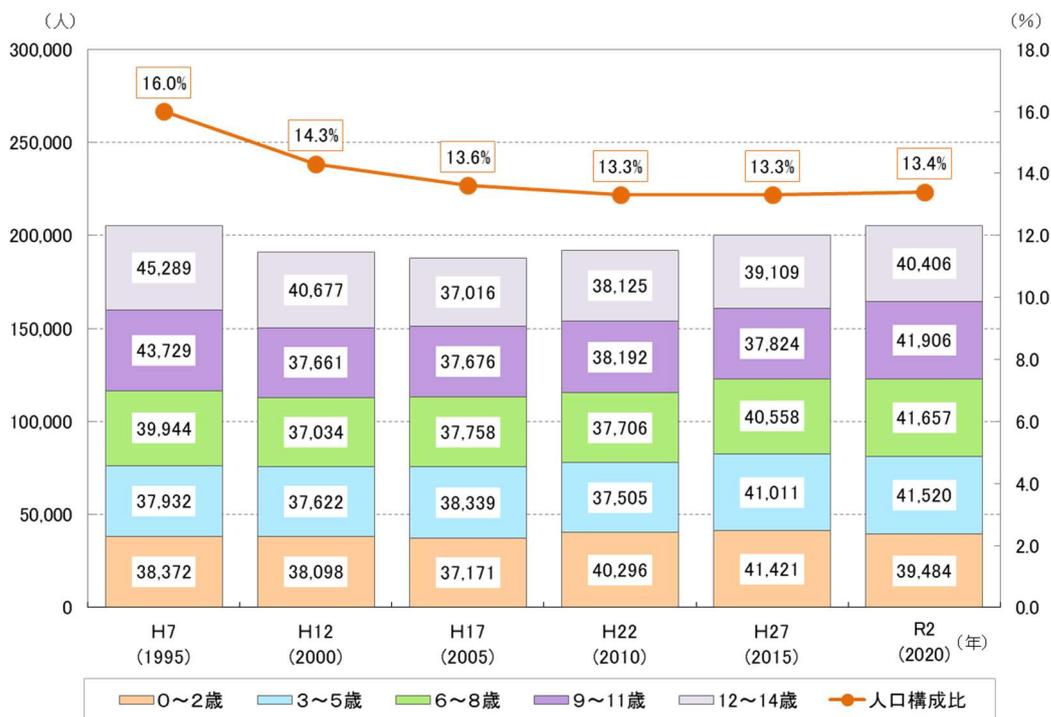
福岡市の人口は、令和 17(2035)年頃にピークとなり約 160 万人に達し、以後は減少に向かうと予測されている。

また、年少人口(0~14 歳)は、平成 17(2005)年頃から増加しているが、令和 2(2020)年頃をピークに減少に向かうと予測されている。



(2) 福岡市の15歳未満人口の内訳と構成率の推移

福岡市の全人口に占める年少人口(0~14 歳)の割合は、平成 17(2005)年まで減少の傾向が続き、以降は横ばいとなっている。

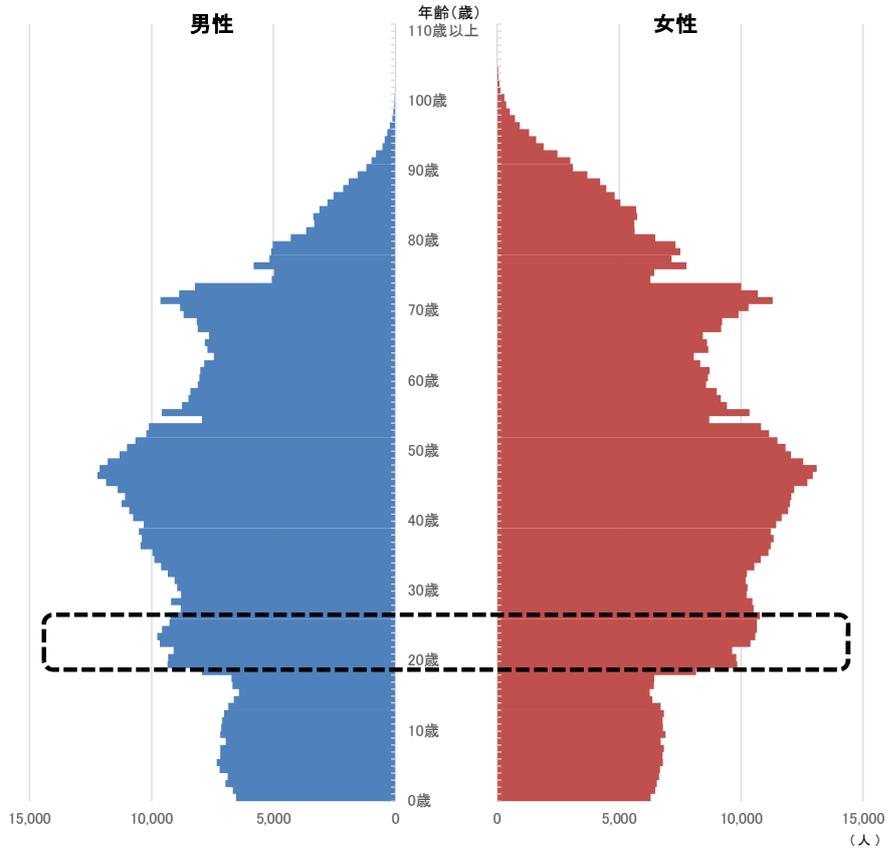


出典：総務省「国勢調査」

(3) 人口構造（人口ピラミッド）

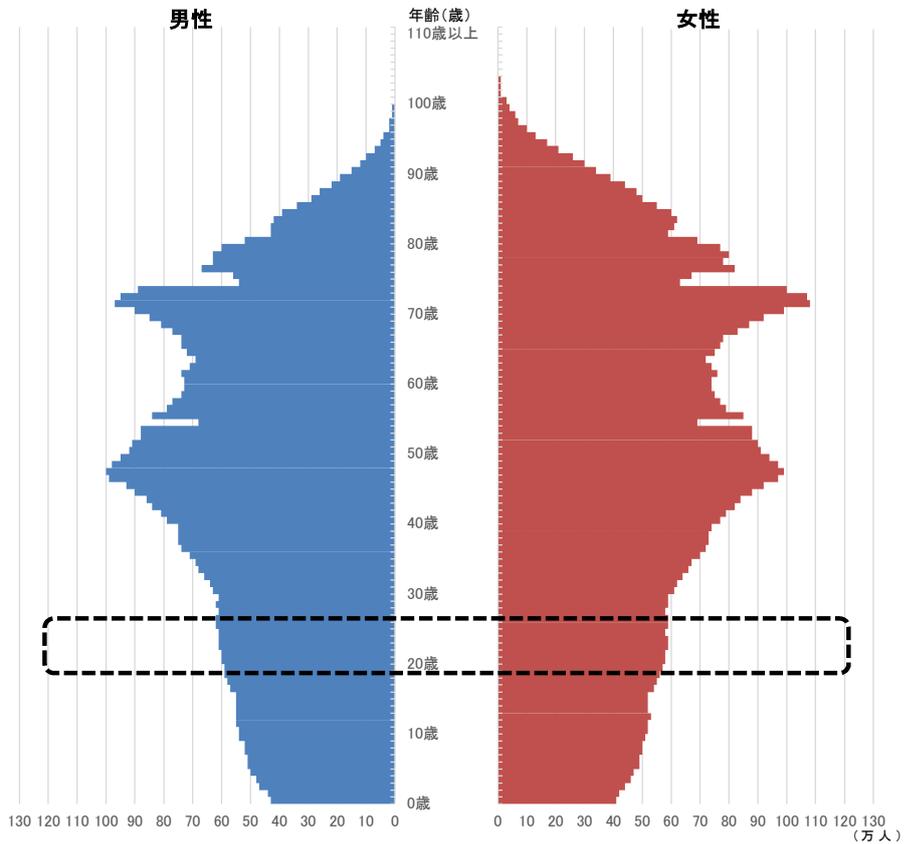
福岡市と全国の人口構造を比較すると、18歳以下の各年齢に比べて19歳から26歳までの人口が大幅に増加する形となっている。

○福岡市



○全国

出典：総務省「R2 国勢調査」



出典：総務省「R2 国勢調査」

(4) 生産年齢人口における男女構成比

福岡市と全国の生産年齢人口を5歳毎に比較すると、全国では、55～59歳の区分から女性人口が男性人口を上回るが、福岡市では、20～24歳の区分から女性人口が男性人口を上回っており、ほぼ全ての年代で女性の割合が多い。

年代	福岡市				全国			
	男性		女性		男性		女性	
	人数	人口に占める男性の割合	人数	人口に占める女性の割合	人数	人口に占める男性の割合	人数	人口に占める女性の割合
15～19	37,066人	(50.0%)	37,116人	(50.0%)	2,880千人	(51.3%)	2,737千人	(48.7%)
20～24	47,385人	(48.1%)	51,036人	(51.9%)	3,018千人	(50.9%)	2,913千人	(49.1%)
25～29	45,280人	(46.3%)	52,604人	(53.7%)	3,074千人	(51.0%)	2,958千人	(49.0%)
30～34	46,831人	(47.4%)	52,010人	(52.6%)	3,297千人	(50.8%)	3,188千人	(49.2%)
35～39	51,659人	(47.8%)	56,315人	(52.2%)	3,697千人	(50.6%)	3,615千人	(49.4%)
40～44	55,379人	(48.1%)	59,821人	(51.9%)	4,189千人	(50.5%)	4,102千人	(49.5%)
45～49	59,338人	(48.4%)	63,331人	(51.6%)	4,863千人	(50.4%)	4,787千人	(49.6%)
50～54	49,924人	(48.1%)	53,972人	(51.9%)	4,277千人	(50.1%)	4,263千人	(49.9%)
55～59	43,324人	(48.2%)	46,479人	(51.8%)	3,865千人	(49.8%)	3,902千人	(50.2%)
60～64	39,048人	(48.0%)	42,380人	(52.0%)	3,593千人	(49.2%)	3,704千人	(50.8%)

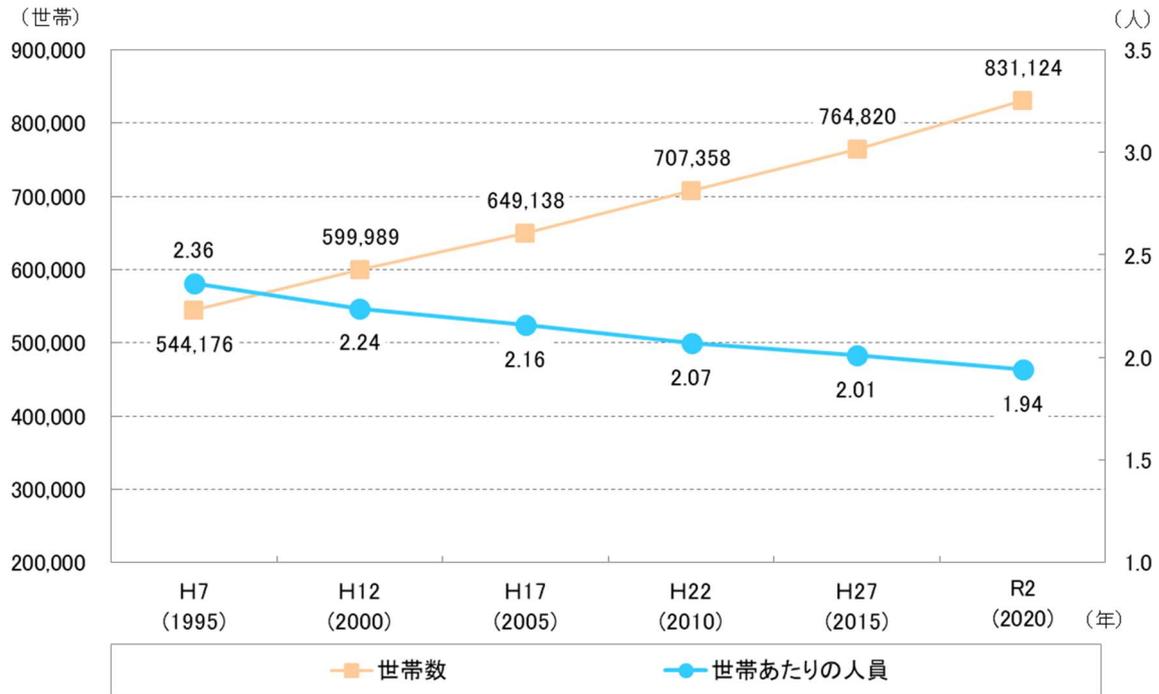
(参考)

全人口	761,148人	(47.2%)	851,244人	(52.8%)	61,350千人	(48.6%)	64,797千人	(51.4%)
-----	----------	---------	----------	---------	----------	---------	----------	---------

出典：総務省「R2 国勢調査」

(5) 世帯数及び一世帯あたりの平均世帯人員の推移

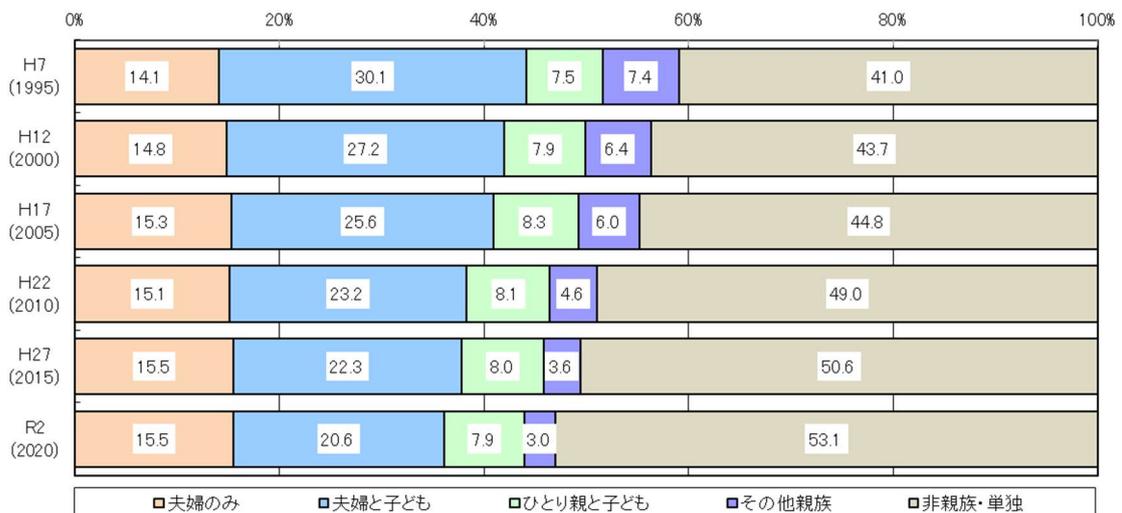
福岡市の世帯数は増加傾向にあるが、一世帯あたりの平均世帯人員は減少傾向となっており、世帯規模の縮小が進んでいる。



出典：総務省「国勢調査」

(6) 家族類型別の一般世帯数の割合

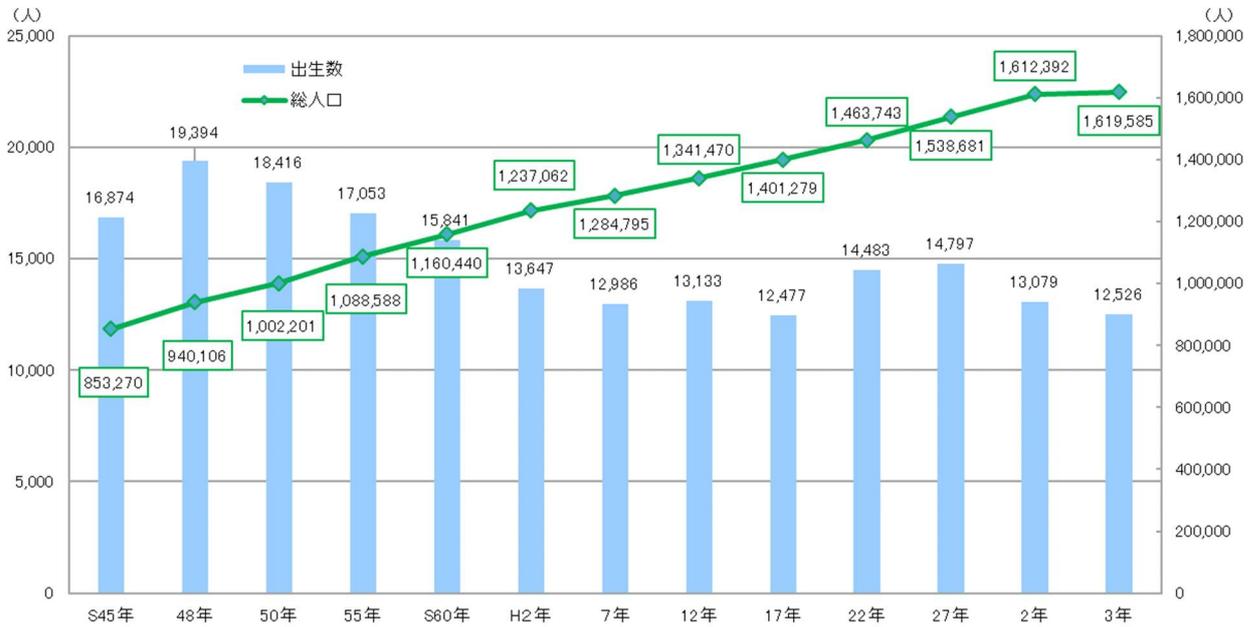
福岡市の家族類型別の一般世帯数の割合を見ると、夫婦と子ども世帯の割合が減少し、非親族・単独世帯が増加するなど、少人数の世帯の割合が増加している。



出典：総務省「国勢調査」

(7) 出生数の推移（昭和45年～令和3年）

福岡市の出生数のピークは、昭和48(1973)年、第2次ベビーブームのピークの年で、その後減少し、平成2(1990)年頃から13,000人台のほぼ横ばいで推移してきたが、平成20(2008)年以降は14,000人台で推移し、近年は減少傾向にある。



出典：福岡市推計人口及び厚生労働省「人口動態統計」

(8) 政令指定都市の出生率（人口1,000人あたり出生数）

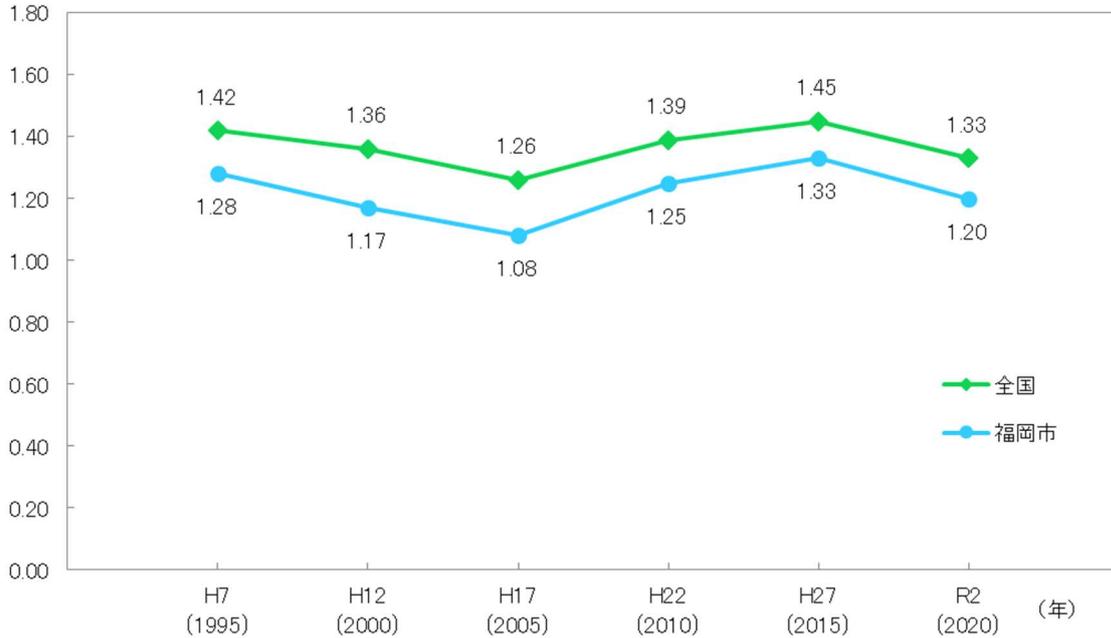
福岡市の1,000人あたりの出生数は7.7人で、政令指定都市の中で、20都市中第3位となっている。

順位	都市名	出生率 (1,000人あたりの出生者数(人))	順位	都市名	出生率 (1,000人あたりの出生者数(人))	順位	都市名	出生率 (1,000人あたりの出生者数(人))
1	熊本市	8.3	8	大阪市	7.0	15	札幌市	6.1
2	川崎市	7.8	9	北九州市	6.8	15	千葉市	6.1
3	福岡市	7.7	10	仙台市	6.7	15	相模原市	6.1
4	名古屋市	7.4	10	堺市	6.7	15	神戸市	6.1
4	岡山市	7.4	12	新潟市	6.5	19	静岡市	6.0
4	広島市	7.4	12	浜松市	6.5	19	京都市	6.0
7	さいたま市	7.3	14	横浜市	6.4	全 国		6.6

出典：厚生労働省「R3年人口動態統計」

(9) 福岡市と全国の合計特殊出生率の推移

福岡市の合計特殊出生率は、平成 27 (2015) 年に比べ令和 2 (2020) 年は 0.13 ポイント減少しており、全国値と比較すると、低い値で推移している。



出典：厚生労働省「人口動態調査」

〔合計特殊出生率とは〕

15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数。

政令指定都市の合計特殊出生率は、国勢調査結果をもとに 5 年毎に算出。

(10) 政令指定都市の合計特殊出生率

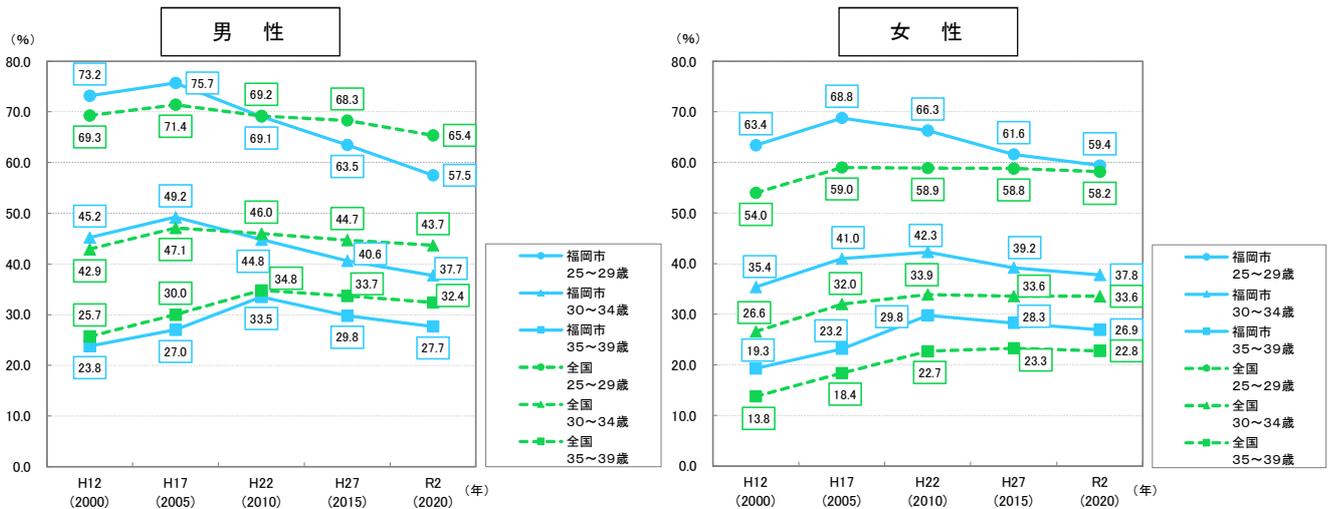
福岡市の合計特殊出生率は、政令指定都市の中で 20 都市中第 16 位となっている。

順位	都市名	数値	順位	都市名	数値	順位	都市名	数値
1	熊本市	1.51	8	静岡市	1.32	15	相模原市	1.23
2	北九州市	1.47	9	さいたま市	1.30	16	福岡市	1.20
3	浜松市	1.44	9	新潟市	1.30	17	仙台市	1.17
3	堺市	1.44	11	神戸市	1.27	17	大阪市	1.17
5	広島市	1.42	12	川崎市	1.26	19	京都市	1.15
6	岡山市	1.41	13	横浜市	1.25	20	札幌市	1.09
7	名古屋市	1.34	14	千葉市	1.24		全 国	1.33

出典：厚生労働省「R2 人口動態調査」

(11) 福岡市の未婚率の推移

福岡市の未婚率(25~39歳の5歳階級別)は、令和2年調査では、男女共に低下している。なお、女性は、全国平均より高い値で推移している。



※配偶関係不詳を含み算出 出典：総務省「国勢調査」

(12) 政令指定都市の若者率

福岡市の若者率(15~29歳の人口÷総人口×100(%))は、政令指定都市の中で、20都市中第1位となっている。



出典：総務省「R2国勢調査」

(13) 政令指定都市の人口1,000人あたりの学生数

福岡市の1,000人あたりの学生数は、政令指定都市の中で20都市中第2位となっている。

順位	都市名	1,000人あたりの学生数(人)	学生数(人)	順位	都市名	1,000人あたりの学生数(人)	学生数(人)
1	京都市	112.6	164,299	11	静岡市	36.2	24,982
2	福岡市	68.5	110,873	12	広島市	36.0	43,135
3	名古屋市	66.5	154,663	13	札幌市	35.9	70,947
4	仙台市	62.5	68,493	14	北九州市	32.4	30,284
5	神戸市	57.8	87,973	15	相模原市	29.0	21,014
6	岡山市	55.5	39,876	16	横浜市	28.9	109,254
7	熊本市	45.6	33,654	17	浜松市	21.3	16,790
8	新潟市	44.6	35,051	18	堺市	21.2	17,420
9	千葉市	38.9	38,033	19	さいたま市	19.6	26,070
10	大阪市	37.7	103,774	20	川崎市	17.4	26,828

令和3年5月1日現在

人口：各市推計人口 / 学生数：学校基本調査（文部科学省）

【学生とは】

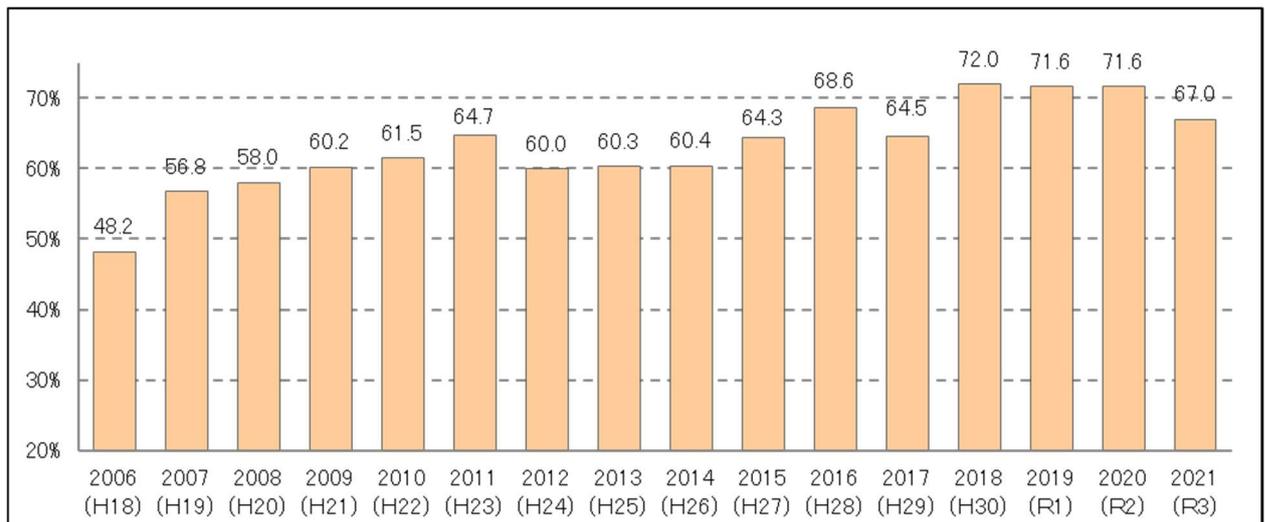
「大学」「短期大学」「専修学校」「各種学校」に通っている者。（院生、聴講生を含む）

専修学校：学校教育法第124条に基づく教育施設（例：専門学校等）

各種学校：学校教育法第134条に基づく教育施設（例：インターナショナル・スクール等）

(14) 子育て環境満足度

福岡市の子育て環境満足度は、平成21年度に60%を超え、その後、60%台で推移。近年は、60%代後半から70%台前半で推移している。



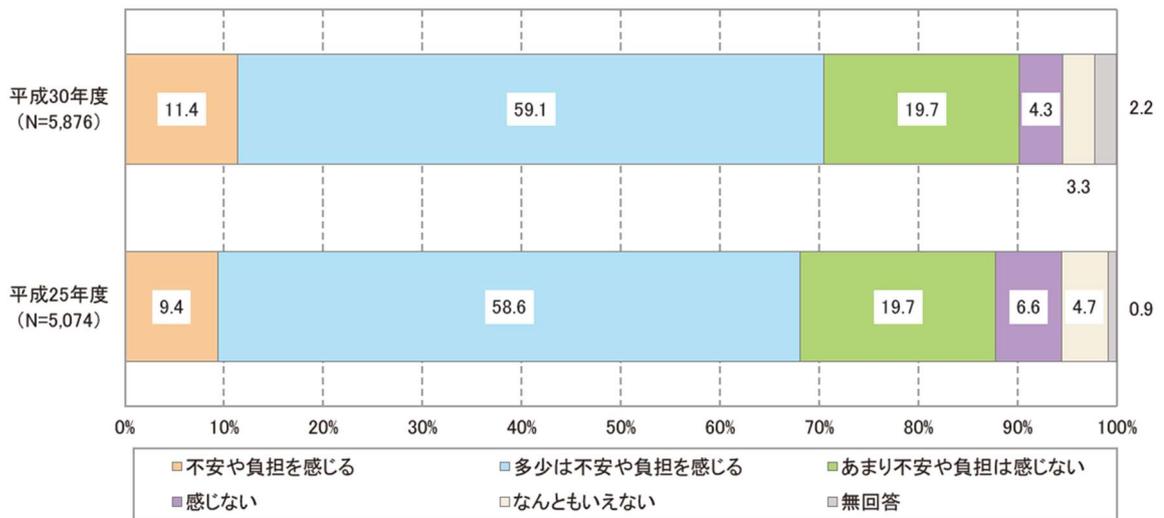
出典：「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」

※ 子育て環境満足度

福岡市は「子育てしやすい」または「どちらかといえば子育てがしやすい」と感じる高校生以下の子を持つ保護者の割合

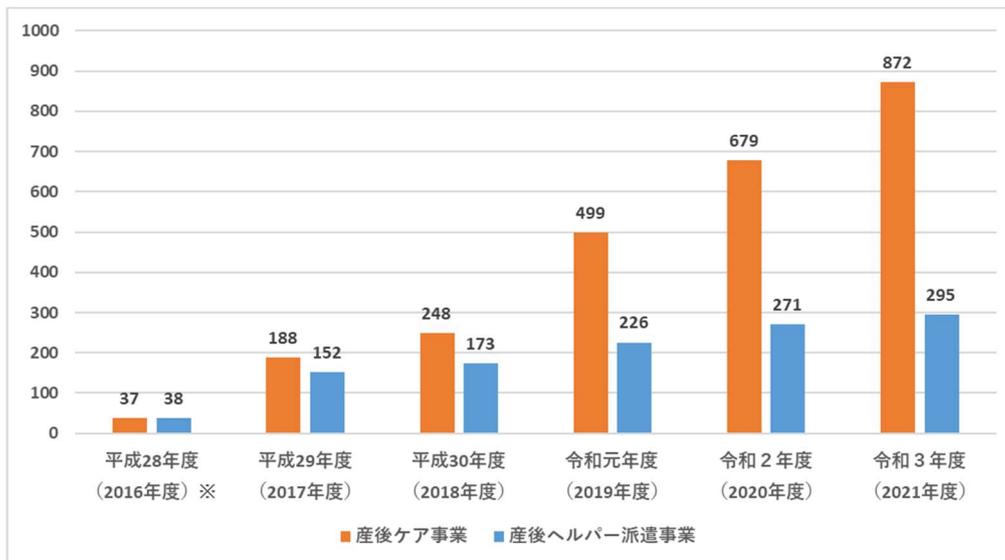
目標 1 関連データ

(1) 子育てに対する不安や負担（乳幼児の保護者）



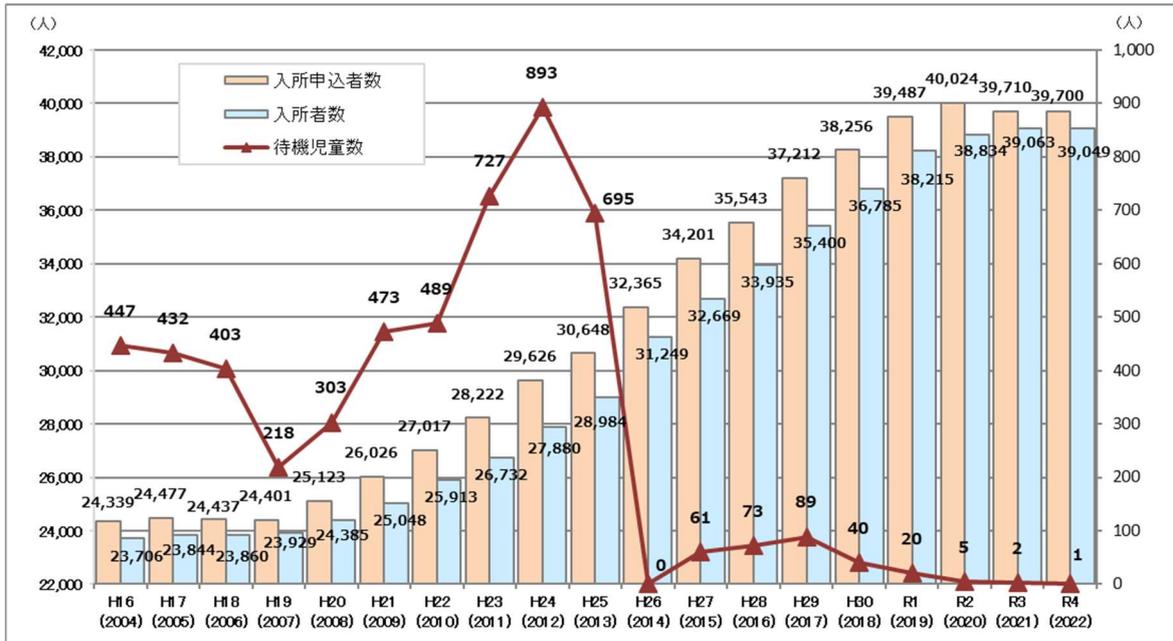
出典：平成30年度 福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

(2) 産後サポート事業の利用者数の推移（実人数）



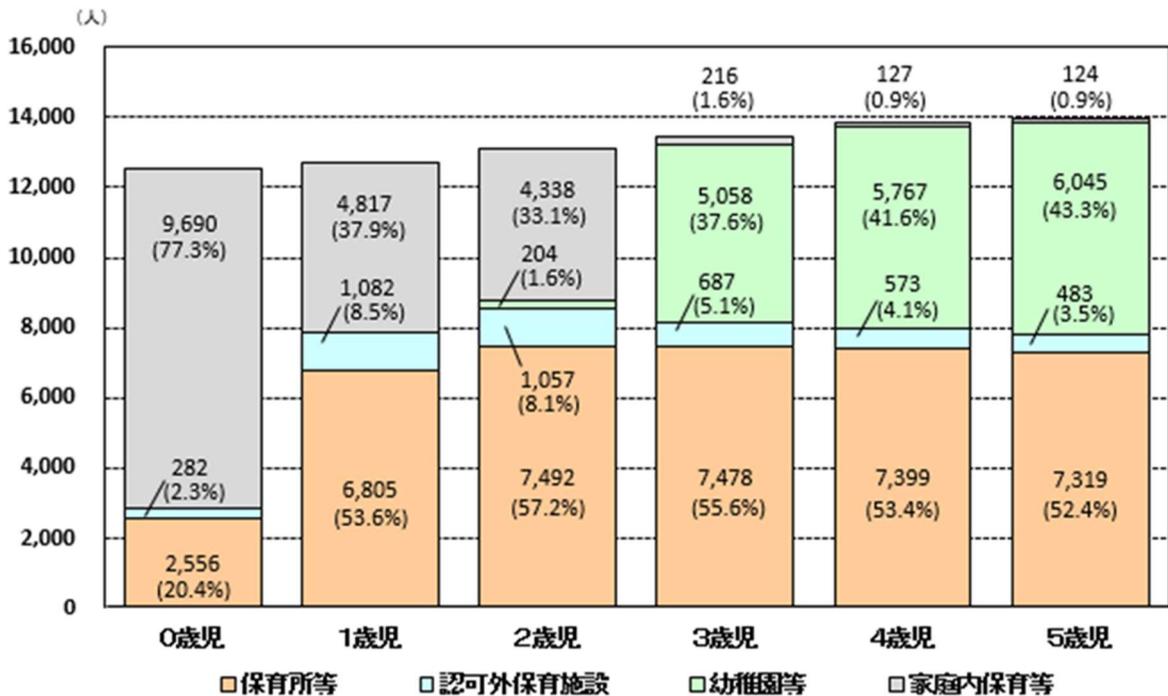
福岡市こども未来局調べ

(3) 福岡市の保育需要の推移



福岡市子ども未来局調べ

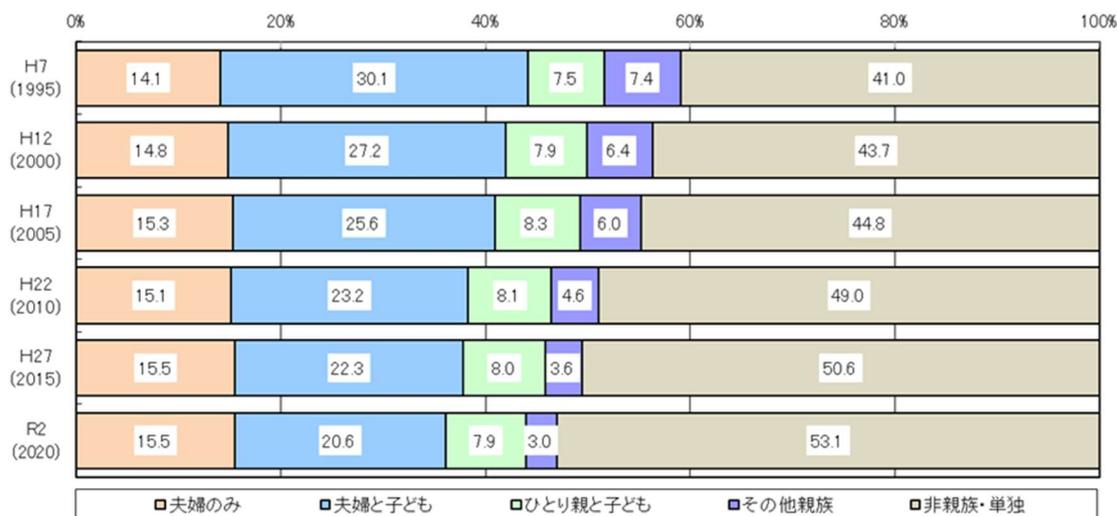
(4) 福岡市の保育等利用の状況



- ※ 保育所等及び認可外保育施設の利用者数は、令和4年4月1日現在
- ※ 保育所等は、保育所、認定こども園（保育機能部分）、地域型保育事業の利用者、幼稚園2歳児預かり事業の利用者
- ※ 幼稚園等の利用者数は、令和4年5月1日現在
- ※ 幼稚園等は、幼稚園及び認定こども園（幼稚園機能部分）の利用者、2歳児は「満3歳児」の利用者

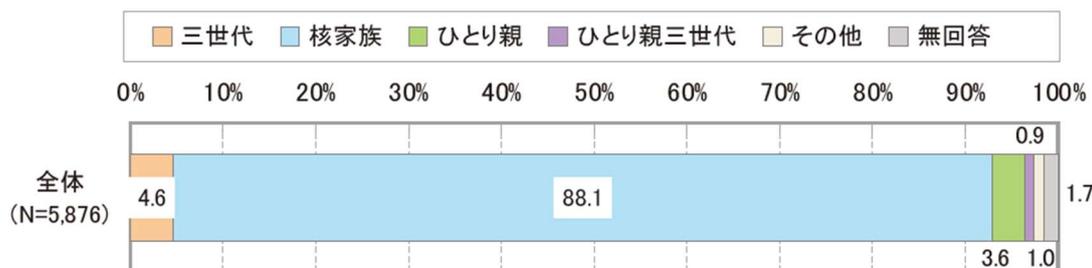
福岡市子ども未来局調べ

(5) 家族類型別の一般世帯数の割合 (1 (6) 再掲)



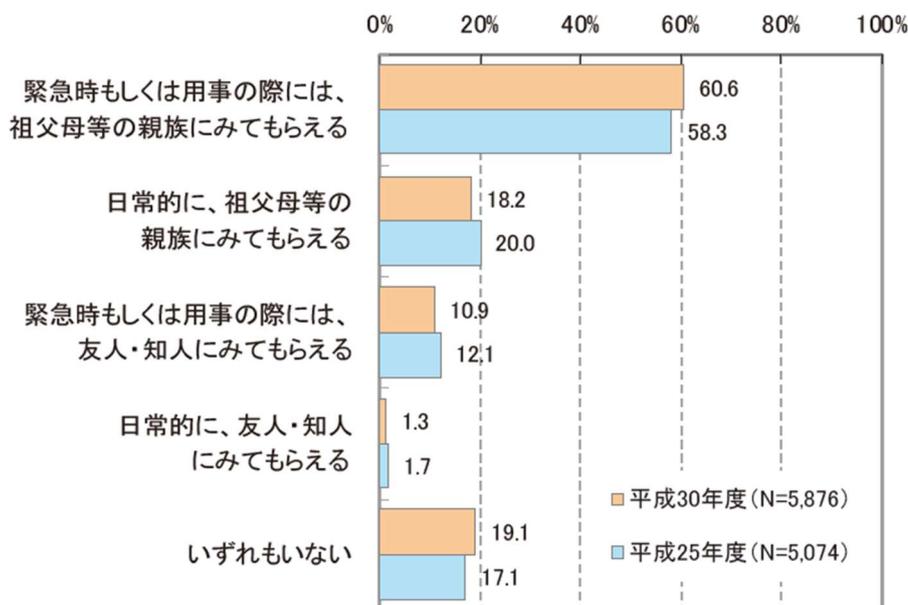
出典：総務省「国勢調査」

(6) 乳幼児がいる保護者の世帯分類



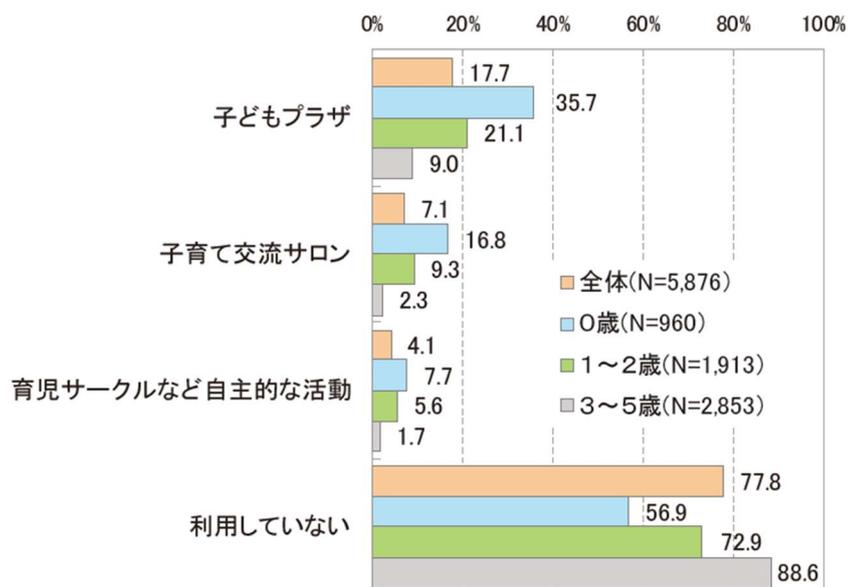
出典：平成30年度 福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

(7) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無 (乳幼児の保護者)



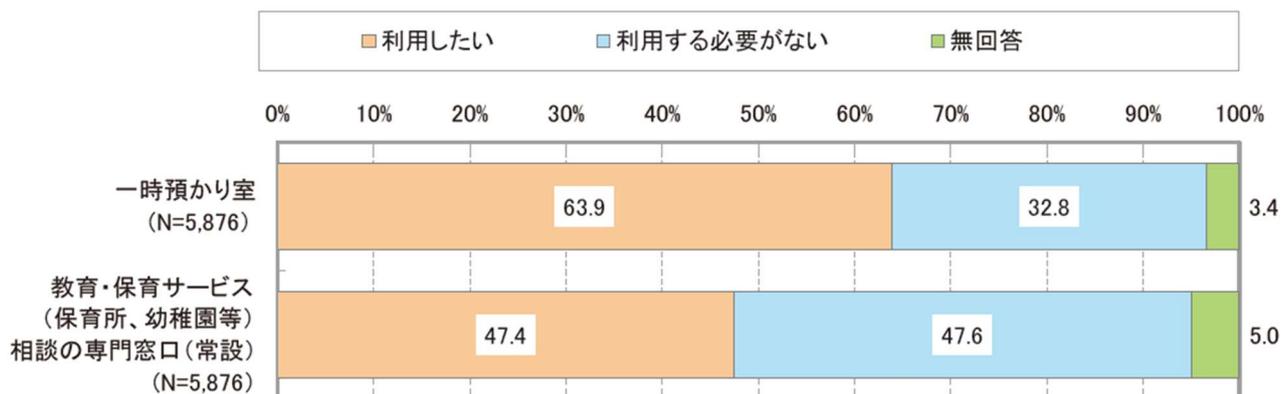
出典：平成30年度 福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

(8) 子どもプラザ・子育て交流サロン等の利用状況（乳幼児の保護者）



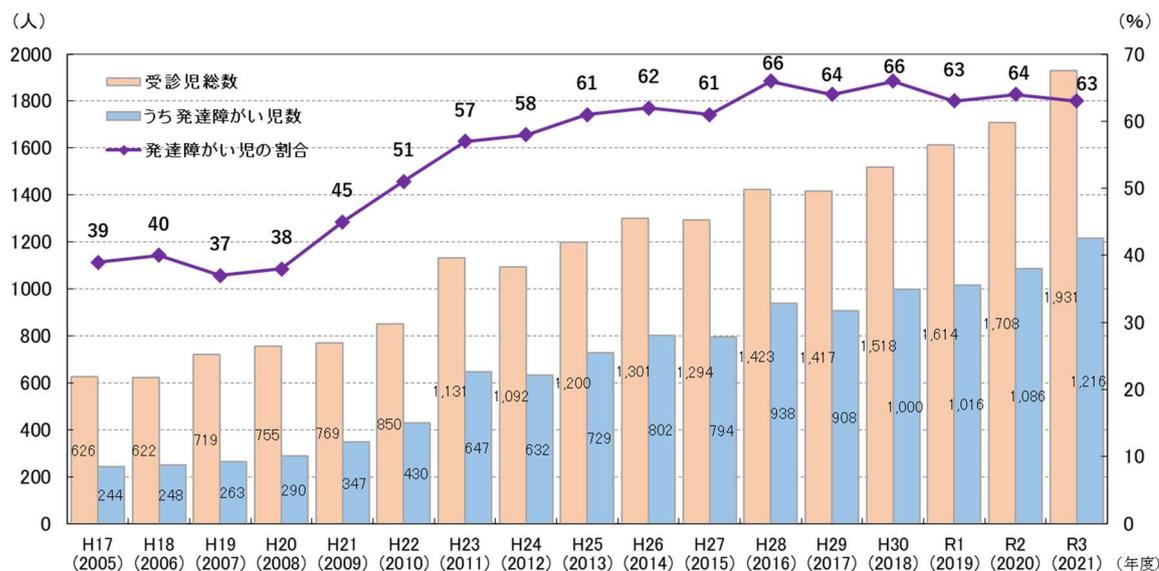
出典：平成30年度 福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

(9) 子どもプラザに次の機能があったら利用したいですか(乳幼児の保護者)



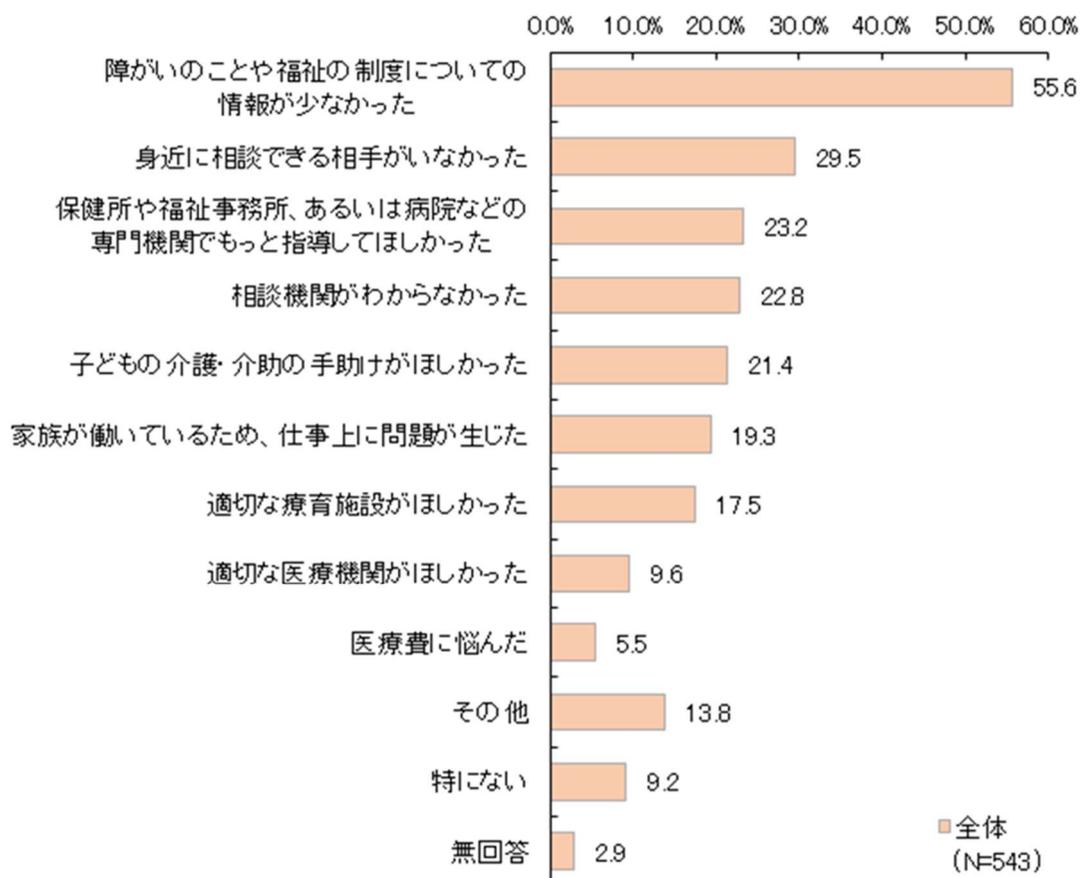
出典：平成30年度 福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

(10) 療育センター等における新規受診児数の推移



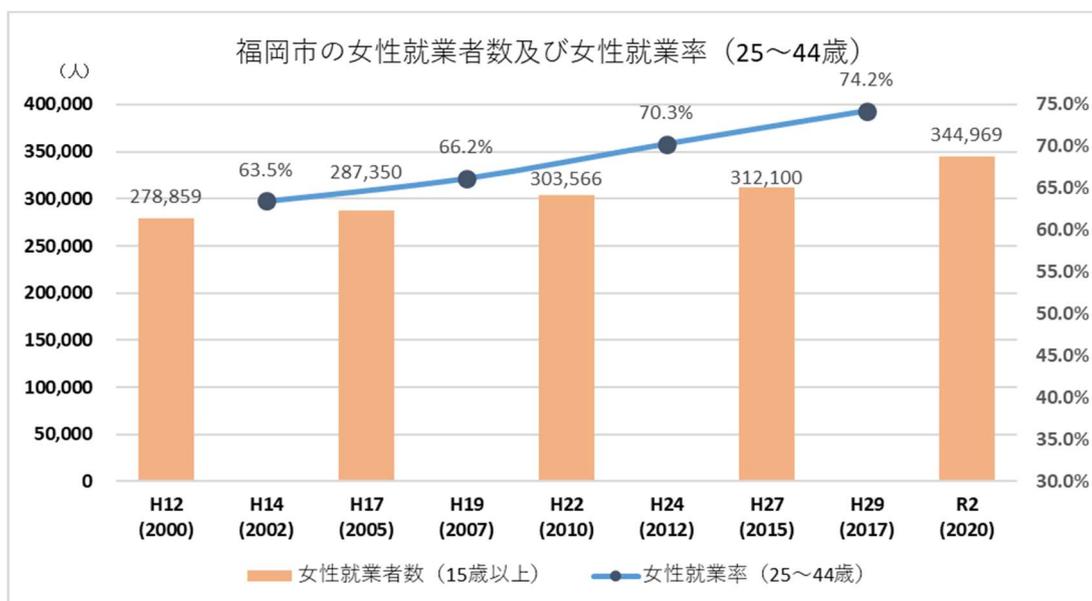
福岡市こども未来局調べ

(11) 障がいの診断・判定を受けた頃の苦勞、悩み、不安



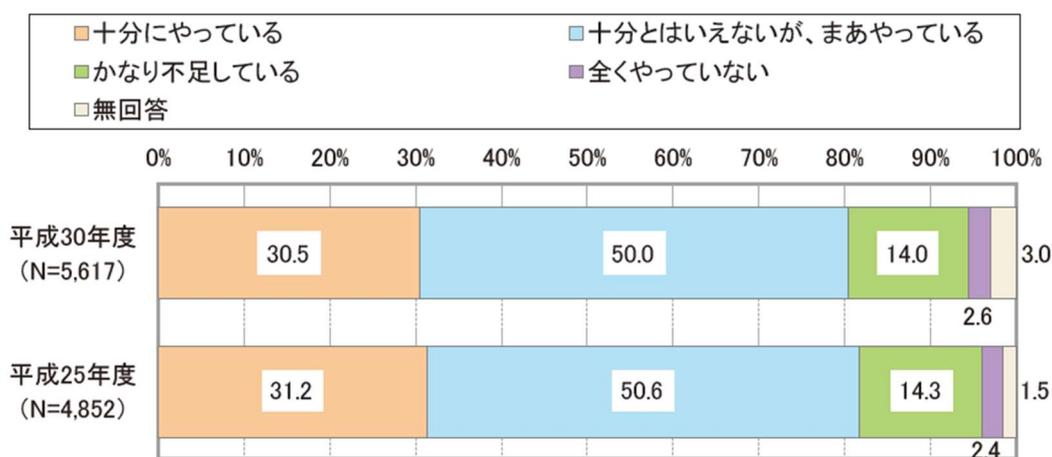
出典：令和元年度 福岡市障がい児・者等実態調査

(12) 福岡市の女性就業者数及び女性就業率



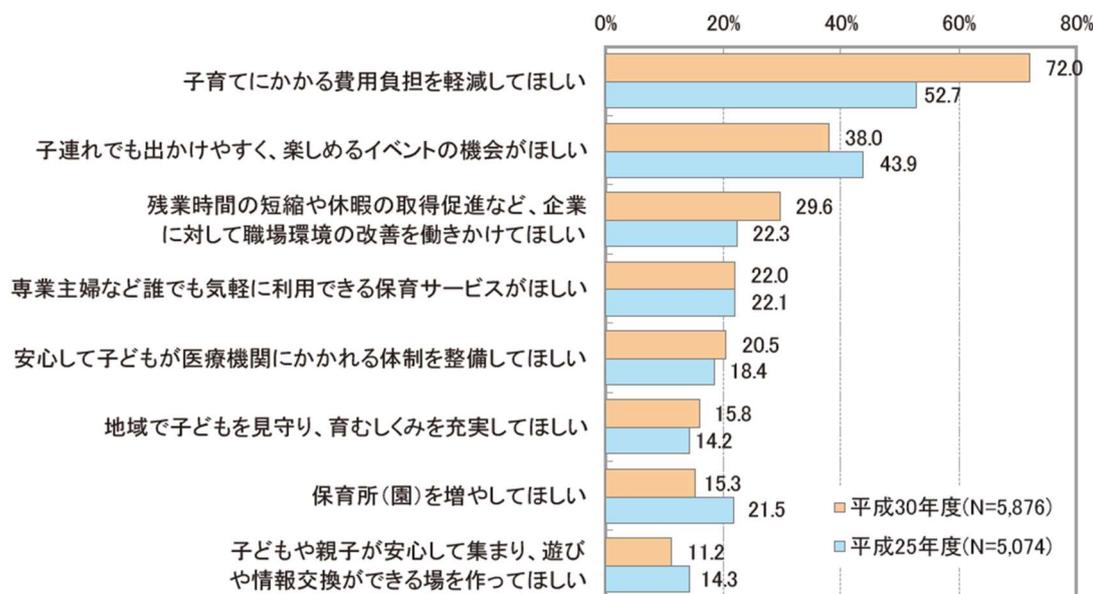
出典：総務省「就業構造基本調査」「国勢調査」

(13) あなたの家庭では、父親はどの程度子育てをしていますか（乳幼児の保護者）



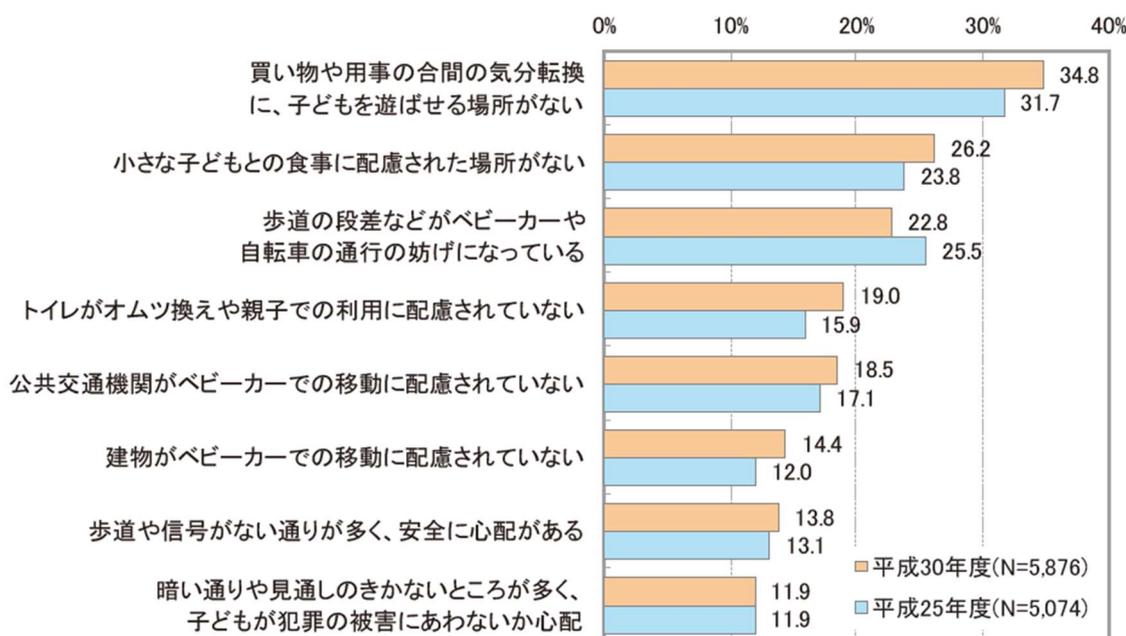
出典：平成30年度 福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

(14) 充実してほしい子育て支援（乳幼児の保護者）



出典：平成30年度 福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

(15) 市内においてお子さんと外出する際、困ること・困ったこと（乳幼児の保護者）



出典：平成30年度 福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査